

News release

Mélodie Deniz
Ernst & Young Global Media Relations
+ 44 (0)78 1063 0576
melodie.deniz@uk.ey.com

* 本ニュースリリースは、英国で6月24日に配信されたものの日本語版です。

第2四半期は景気回復と超大型案件の増加により世界のIPO市場が活発化

- ・ 米国では市場マインドの回復により取引件数、資金調達額がともに増加
- ・ 欧州は引き続き慎重な姿勢、しかしパイプラインは充実
- ・ IPO取引上位10件のうち5件がアジア市場

ロンドン、2013年6月24日

EYが発表した「Global IPO update」によると、2013年第2四半期の世界のIPOは約195件、資金調達額は約464億米ドルに達する見通しで、IPO活動の安定化傾向がみられています。今期現時点の実績は151件で、340億米ドルが調達されました。第2四半期最終日までさらに47社のIPOが予定され、全て成立すると資金調達額はさらに125億米ドル増加します。

今期最大の取引は、ブラジルの金融サービス会社BB Seguridade Participacoes SAの株式公開で、BM&F BOVESPA(ブラジル証券商品先物取引所)において50億米ドルが調達されました。今期は世界全体の上位10件中9件で10億米ドル超が調達されています。

2013年第2四半期の全体予測によると、世界のIPO活動は2013年第1四半期(156社、243億米ドル)と比較して、資金調達額では92%、件数では27%増加する見込みです。2013年上半期には、約354社のIPO上場により707億米ドルが調達されるものとみられています(前年同期比で資金調達額は618億米ドルから14%増加するものの、件数では21%(446社)減少となります)。

2013年第2四半期に延期および中止された割合は、前年の同時期と比べて(延期15件、中止71件)低く、全世界で延期が7件、中止は24件にとどまりました。

EYの戦略的成長市場本部グローバル・バイスチェアのマリア・ピネリは、「上向きな株式市場や、市場に大きなインパクトを与えている最近の超大型案件の波を受けて、IPO市場の窓が再び開かれています。世界的に金融政策が強化されていることもあり、特に米国、日本、英国、および中南米の一部で市場のマインドが改善しつつあります。これら要因に加えてパイプライン案件が充実していることから、今年下半期は好結果が予想されます。しかし、2013年第2四半期におけるIPOの89%が想定価格内またはそれを上回る価格で発行されました。依然として価格設定が投資家にとっての重要な関心事であることから、経営陣には引き続き慎重さが求められます」と述べています。

堅調な米国市場

2013年第2四半期、米国の証券取引所では新規IPO48社で120億米ドルが調達されました。これは、会社数で見ると世界で実施されたIPOの32%、資金調達額では35%に相当します。2013年第1四半期(32件、86億米ドル)と比較すると、資金調達額は40%近く増加しました。また、前年同期比(33社、232億米ドル)では、資金調達額が65%増加しました(フェイスブックの上場を除く)^{※1}。IPO件数では、2013年第1四半期と比較すると50%増、前年同期比で45%増となりました。

2013年上半期は、2012年上半期と比較して、資金調達額は31%減少しましたが、会社数では8%増加しました。米国の証券取引所における14社のIPOが6月末までに成功すれば、さらに28億米ドルの資金調達が見込まれます。

「上場を予定している企業の数には充実していますが、平均調達額は低下傾向にあります。米国JOBS法(Jumpstart Our Business Startups Act)の影響から、これまでより小規模な新興成長企業が非公開での登録申請を利用して、公開市場で資金調達していることがその原因の一つとして挙げられます」とピネリは指摘しています。

業種別では、金融、特に保険業界が資金調達額において今期、堅調な動きを見せました。ライフサイエンスおよび製薬企業を含めたヘルスケアセクターも好調でした。

引き続き慎重な欧州市場

2013年第2四半期、欧州の証券取引所では27社のIPOが実施されましたが、資金調達額は20億米ドルにとどまり、同時期に世界で調達された資金のわずか6%でした。2013年第1四半期(28件、51億米ドル)と比較すると、資金調達額では63%減少しましたが、会社数は4%減少したにすぎません。一方、半期比較では、2012年1月~6月(99社、38億米ドル)と比べて、資金調達額は82%増加しましたが、会社数では44%減少しています。6月末までにさらに5社のIPOが完了する予定で、成功すれば23億米ドルが追加調達されることとなります。

「米国では大企業の新たな市場参入が見られましたが、欧州では対照的に、有力企業による小規模な募集が主体でした。しかし、1月のLEGイモビリエンAG(16億米ドル)、3月のeSureグループplc(11億米ドル)といった大型案件が戻ってきたことが欧州のIPO市場を支えました。今後は、より多くの小型案件がとりわけ欧州の伝統的な市場において増えてくることを期待しています」とピネリは述べています。

緩やかな回復基調を見せるアジア市場

アジアでのIPO活動は、引き続き中国証券取引所への新規上場休止(2012年11月以降)の影響を受けています。これを受けて、2013年上半期の中国証券取引所のIPOはゼロ件でした。しかし、アジア全体で見ると、2013年第2四半期におけるIPOは44社で、世界全体の資金調達額の31%に相当する105億米ドルが調達されています。6月末までにはさらに20社のIPOが完了する予定で、全て成立すると71億米ドルが追加調達されます。

※1: 2012年5月に実施されたフェイスブックのIPOによる160億米ドルを含めた場合、2013年第2四半期現在までの資金調達額は、2012年第2四半期と比較して49%減少。

2013年上半期(111社、160億米ドル)は、前年の同時期(209社、237億米ドル)と比較すると、資金調達額では33%減、会社数では47%減となりました。2013年第2四半期の取引高上位

10 件のうち 5 件がアジア市場の取引でした。最大の取引案件は、4 月に行われたタイの BTS レイル・マストランジット・グロース・インフラストラクチャー・ファンドの上場で、21 億米ドルが調達されました。続いて、香港市場におけるシノペック・エンジニアリングの上場で、18 億米ドル(想定レンジの下限価格)が調達されました。11 億米ドルを調達した中国銀河証券についても、想定レンジの下限価格で取引されました。東京証券取引所では野村不動産マスターファンド投資法人が新株発行により 17 億米ドルを調達し、日本市場の復活を印象付けました。

「アジアでの取引額は回復してきたものの、2013 年下半期に中国が IPO を再開し、資産価値が以前の堅調な水準に戻るまでは、状況が立ち直ったとみなすことはできません。香港と日本の証券取引所で IPO デールが増加しており、同時にタイ、シンガポール、マレーシア、また(一定の範囲において)インドネシアといった新興市場でも、よりポジティブな景況感からくる活発な活動がみられています」とマリア・ピネリは述べています。

業種別 IPO の特徴

2013 年第 2 四半期における資金調達額の業種別トップは金融サービスで、世界の IPO 取引高(101 億米ドル)の 3 分の 1 弱(30%)を占めています。今期の取引高上位 10 件のうち 3 件が金融サービスであったことから納得できる結果です。工業(20%、69 億米ドル)および不動産(11%、37 億米ドル)も資金調達額で善戦しました。会社数では、工業が第 1 位(17%、25 社)で、金融サービス、ヘルスケア(いずれも 13%、20 社)がこれに続いています。

ファンド支援を受けた IPO 案件のプレゼンスが高まる

EY のグローバル・プライベート・エクイティ IPO リーダーであるジェフリー・バンダーは、「2013 年第 2 四半期における取引のうち、プライベート・エクイティやベンチャー・キャピタルの支援を受けた IPO は、取引件数では世界全体の 24%を占め、資金調達額では 29%を占めています。過去 2 四半期においては、プライベート・エクイティの支援を受けた IPO のうち 35%は米国の案件でしたが、これは大型案件(5 億ドル超)が 70%を占めていたためです。プライベート・エクイティやベンチャー・キャピタルの出資者は、引き続き市況の好転を生かして、投資先企業やポートフォリオ企業を上場へと導くことで好調に利益を生み出していくと思われます。高いリターンが期待できることから、この種の IPO に対する機関投資家の投資意欲が高まっています。」と述べています。

今後の展望

「下半期は、取引件数や資金調達額において、一つのセクター(業種)が他を圧倒することはありません。セクターの多様化は、資本市場にとっても投資家にとっても好材料です。世界的な業績回復の兆しでもあり、景気回復がより広がりつつあることを意味しています。しかし、価格設定が重要なポイントになってきます。実に 91%の投資家が魅力的な価格設定に注意を払っています。IPO の成功に最も大きな影響を与えるファクターと言えるでしょう」とマリア・ピネリは結論付けています。

以上

Notes to editors

¹ Data sourced from Dealogic.

² From *Right team, right story, right price - Institutional investors support IPOs that come to market well prepared* - Ernst & Young (2013).

About Ernst & Young's IPO offering

Ernst & Young is a leader in helping to take companies public worldwide. With decades of experience our global network is dedicated to serving market leaders and helping businesses evaluate the pros and cons of an IPO. We demystify the process by offering IPO readiness assessments, IPO preparation, project management and execution services, all of which help prepare you for life in the public spotlight. Our Global IPO Center of Excellence is a virtual hub which provides access to our IPO knowledge, tools, thought leadership and contacts from around the world in one easy-to-use source. www.ey.com/ipocenter

EY について

EY は、アシュアランス、税務、トランザクションおよびアドバイザリーなどの分野における世界的なリーダーです。私たちの深い洞察と高品質なサービスは、世界中の資本市場や経済活動に信頼をもたらします。私たちはさまざまなステークホルダーの期待に応えるチームを率いるリーダーを生み出していきます。そうすることで、構成員、クライアント、そして地域社会のために、より良い世界の構築に貢献します。

EY とは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバル・ネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。詳しくは、ey.com をご覧ください。